



＜2019年度研究プロジェクト報告＞キリスト教主義教育プロジェクト：今日の日本社会におけるキリスト教大学の存在意義と使命

著者	東 よしみ
雑誌名	関西学院大学キリスト教と文化研究
号	21
ページ	134-134
発行年	2020-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10236/00028711

キリスト教主義教育プロジェクト：

今日の日本社会におけるキリスト教大学の存在意義と使命

＜プロジェクトメンバー＞

東 よしみ（代表、主任研究員、神学部准教授）

打樋 啓史（センター長、社会学部教授）

加納 和寛（センター副長、神学部准教授）

橋本 祐樹（主任研究員、神学部助教）

大宮 有博（主任研究員、法学部教授）

梶原 直美（主任研究員、教育学部准教授）

RCCの全構成員からなるこのプロジェクトでは、キリスト教主義大学の存在意義と使命、その課題を考え、新しい取り組みのあり方を模索している。

まず、「キリスト教学校が若者に何を伝えていけるのか」というこのプロジェクトとの関連で定められた共通テーマで、春学期と秋学期にRCC主催の講演会が開催された。春学期には青山学院大学宗教部長の塩谷直也先生、秋学期には立教学院副院長の西原廉太先生から、それぞれの大学における取り組みについて聞く機会を得た。講演とその後の懇談を通して、各大学が授業や授業以外の課外活動を通して、どのような形で学生や教職員に対してキリスト教を発信しているのか、現状を聞き、意見交換をすることができた。

また、これまでの本学のキリスト教に関わる発信の収集、公表を継続して行うことを目指している。今年度は、2015年度以降の大学案内、KG Today、KG Journal、チャペル週報、母校通信（初等部、中学部、高等部）の中から、キリスト教に関する記事を選び出す作業をメンバー全員で行った。これらの記事は、本学がキリスト教に関して発信するものの中で、特に重要と思われるものである。可能であれば2020年度に『「建学の精神」考』第5集として出版したいと考えている。

（東 よしみ・プロジェクト代表）